

坊's Hostel (ぼうずほすてる)

～日常から一歩離れてお寺に泊まろう！～

木村 克也

【コンセプト・概要】

坊は信者のための宿泊施設、また僧侶の住居も意味します。宿坊は現代でも人気がありますが、高級化の傾向もあり、一般の旅行者、特にバックパックでやってくる外国人旅行者や、大学生などにはやや敷居が高く感じられます。この「坊's Hostel」は、もっと身近な「寺体験」を提供するものです。僧侶の住居の一部屋などを宿泊者に提供するなど、お寺にホームステイする感覚で、朝のお勤めはもちろん寺院の清掃などにも参加してもらいます。そのかわり、宿泊にかかる費用はユースホテルと同様低価格におさえます(無料で良いという寺院の場合は、もちろん無料)。

【ねらい】

- ・日常生活から一歩離れて心身をリフレッシュする。
→旅館のような立派な宿坊に「お客様」として泊まるのではなく、身近なお寺に泊めてもらい、朝のお勤めや寺院の清掃など、お寺の日常を体験することで、自身の日常から一歩離れて心身をリフレッシュする。
- ・外国人の日本文化体験・理解を促進する。
→外国人旅行者にも門戸を開くことで、日本文化の基底にある仏教文化を、歴史遺産としてではなく、今も”生きている”宗教として体験してもらう。

【形態】

- ・宿泊施設＝寺院の宿泊施設があればそこを活用。ない場合も、ホームステイの形で住職の家族の一部屋を貸すなどする。最近では、和室雑魚寝型のゲストハウスも外国人旅行者に人気があるので、(価格設定にもよるが)個室にする必要はないと考える。
- ・宿泊料＝1000円程度から、3000円程度を目安に各寺院で設定。(ユースホテルの宿泊料を上回らないことを目安にする)
- ・食事＝各寺院の任意で、家族の食卓に加わったり、素泊まり、または朝食のみなどで提案。(旅館業ではないので、ホームステイのようなイメージで)
- ・予約などのシステム運営＝ポータルサイトを作成し、全国の協力寺院を検索・予約できるようにする。出発前に次のお寺を予約できるようにしたい。専用の御朱印帳を作ってスタンプラリー風にし、マニアには全国制覇を目指してもらう。

【主なターゲット】

- ・国内: 大学生など、低予算での旅行者
 地元の社会人などの週末出家体験
 地元の小中学生などの体験学習
- ・海外: バックパッカーなどの低予算での旅行者

【期待される効果、地域への効果】

- ・内外の旅行者が低価格で宿泊できる施設としても価値があるが、地域にとっては、地元の名産や名所を案内する拠点として使え、活性化につながる。
- ・和室での生活をほとんど経験したことがない都市部に育った若者にとっては貴重な日本文化再発見の体験になるとともに、地域のよさを感じてもらえる機会になる。
- ・観光目的ではなく、あくまでお寺のお勤めに参加し心身のリフレッシュをすることが主目的なので、観光地化して騒がしくなる、といったデメリットは少ない。
- ・土地によっては、週末はボランティアによるツーリズムガイドを実施するなどの企画も考えられ、寺院を拠点に地域の魅力をアピールすることができる。

【外国人旅行者への効果】

- ・全国に広がる寺院のネットワークを活かすことで、ガイドブックにはない周遊旅行を提案・実現できる。
- ・低価格での宿泊、および文化体験ができる。

【さいごに】

魅力は、寺院のネットワークをいかして日本全国規模で展開できる点です。

そして、旅館のように宿泊者をゲストとしておもてなしをするのではなく、あくまで文化体験として寺院の日常に触れてもらうことで、普通の宿では提供できない経験の場となります。

また、地域に旅行者が訪れることで、地域経済や観光の活性化拠点としても機能することが期待できます。

「坊'sHostel」は観光目的ではなく、精神修養や文化体験の一環であることを利用者と地域も認識することが大切です。そこに華美なもてなしは必要ありません。